

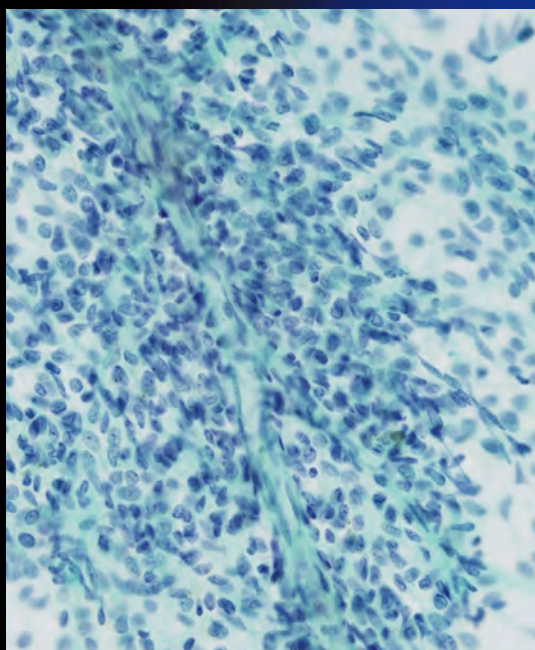
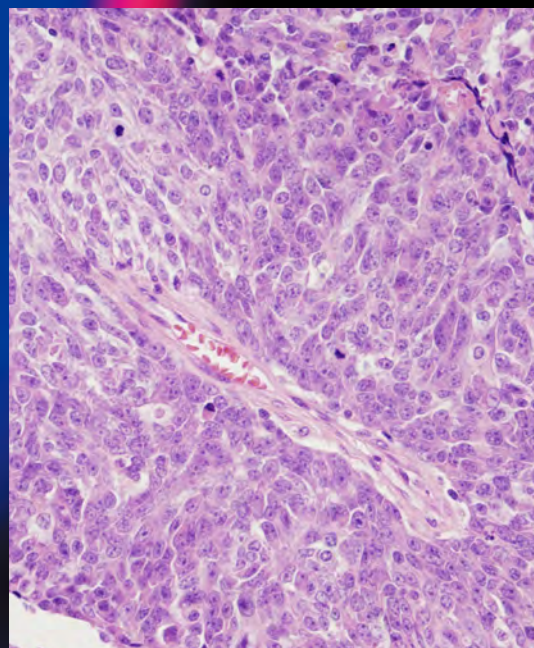
ONLINE ISSN 1882-7233
PRINT ISSN 0387-1193

日 臨 細 胞 誌
J.Jpn.Soc.Clin.Cytol.

第57巻 第2号 平成30年3月

日本臨床細胞学会雑誌

THE JOURNAL
OF THE JAPANESE
SOCIETY OF CLINICAL
CYTOLOGY



公益社団法人
日本臨床細胞学会

<http://www.jscc.or.jp/>

Vol.57 No. 2
Mar. 2018

目 次

編集委員巻頭言	矢納 研二
---------	-------

〈総 説〉

悪性中皮腫の細胞像——中皮腫細胞診評価ワーキンググループの報告をふまえて——地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター病理診断科 河原 邦光	(101)
--	-------

〈原 著〉

ホルマリン固定乳癌細胞セルブロックを用いたホルモン受容体および HER2 検査における固定時間の検討四国がんセンター臨床検査科 岡本 奈美・他	(109)
子宮頸がん集団検診における ASC-H 判定の広がりとは問題点——前期、後期 3 年間の変化から——(公財) 福島県保健衛生協会 森村 豊・他	(114)

〈症 例〉

回盲部子宮内膜症の 1 例正和ラボラトリー 船津 靖亮・他	(120)
超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）で得られた大動脈周囲に発生した傍神経節腫の細胞像淀川キリスト教病院病理課 三好真由美・他	(125)
左肩に発生した筋上皮癌 myoepithelial carcinoma の 1 例がん研究会がん研究所病理部 石井 脩平・他	(129)
サーベックスブラシコンビ®を用いた外陰細胞診が診断に有用であった外陰 Paget 病の 2 例市立長浜病院産婦人科 北澤 純・他	(136)

投稿規定	(142)
編集委員会	(149)

＊

〈表紙写真〉

左肩に発生した筋上皮癌
（左：パパニコロウ染色，右：H-E 染色）（石井脩平・他，左：Photo. 2b, 131 頁，右：Photo. 3c, 132 頁）

CONTENTS

Editorial.....	Kenji Yanoh
----------------	-------------

Review Article

Cytodiagnosis of malignant mesothelioma in pleural effusion cytology—Practical criteria created by a working group on mesothelioma cytology examination of the Japan Lung Cancer Society— Kunimitsu Kawahara (Dept. of Path., Osaka Habikino Med. Center, Osaka)	(101)
---	-------

Original Articles

Validation study of fixation time for hormone receptor and HER2 analyses on formalin-fixed breast cancer cell blocks Nami Okamoto et al. (Dept. of Clin. Lab., Shikoku Cancer Center, Ehime)	(109)
Problem of spread of ASC-H diagnosis —Transition between an earlier and later and 3-year periods following introduction of The Bethesda System— Yutaka Morimura et al. (Fukushima Preservation Service Assoc. of Health, Fukushima)	(114)

Clinical Articles

A case of ileocecal endometriosis Yasuaki Funatsu et al. (Seiwa Lab. CO., LTD., Saitama)	(120)
Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration cytology/histology findings of paraganglioma around the abdominal aorta—A case report— Mayumi Miyoshi et al. (Dept. of Path., Yodogawa Christian Hosp., Osaka)	(125)
A case of myoepithelial carcinoma of the left shoulder Shuhei Ishii et al. (Dept. of Path., The Cancer Inst., Tokyo)	(129)
Usefulness of vulvar cytology using Cervex-Brush Combi® in the diagnosis of vulvar Paget's disease —Two case reports— Jun Kitazawa et al. (Dept. of Obst. and Gynecol., Nagahama City Hosp., Shiga)	(136)

Notice to contributors.....	(142)
-----------------------------	-------

Cover Photo

Myoepithelial carcinoma of the left shoulder (Left : Pap. stain, Right : H-E stain) (Shuhei Ishii, et al., Left : Photo. 2b, p131, Right : Photo. 3c, p132)	
--	--



編 集 委 員 卷 頭 言

Kenji Yanoh

矢 納 研 二

JA 三重厚生連鈴鹿中央総合病院産婦人科

▶ “段々上手になる” ということ



日本臨床細胞学会雑誌第 57 巻第 2 号では、1 編の総説と 2 編の原著論文、4 編の症例報告が収録されています。これらの総説、原著論文は、いずれも日常の細胞診断業務に直結するテーマであり、新しい知見が示されています。また、症例報告で報告されている疾患は、すべて通常では経験しがたいものであり、論文によって経験を共有されることが重要であると思われます。

ところで、私はもともと細胞診断学が好きです。理由を尋ねられるたびに、さまざまな答え方をしていますが、その理由の一つに、細胞診判定のスキルが一朝一夕に身につかないことが挙げられます。細胞診を学ぶ途中では、もうなんでも判るような気がしたかと思うと、腺細胞なのか、扁平上皮細胞なのかさえわからなくなり、永遠にこのようなことが続くような絶望に陥ることの繰り返しでした。そのような過程を繰り返して、なんとか細胞診専門医試験には合格できました。その後は、せっかく得た資格で何ができるのか、挑戦してみたくなりました。細胞診にはまだまだたくさんの可能性が残されていると思ったからです。そのような思いで、今までに子宮体癌における腹腔内癌細胞の意義、卵巣腫瘍と細胞診（論文としては未発表）、そして、細胞診の勉強で最も不得意であった子宮内膜細胞診の諸問題に取り組んでまいりました。子宮体がんでは、腹腔細胞診陽性の意義が世界的に二分されて議論されていました。私は、これだけの研究者たちがこれだけ大規模な検証を行って、なお意見が分かれるということに興味を感じました。そして、何か見過ごされている因子があると考え、最終的には、腹水中に浮遊するがん細胞集塊の形態によって予後が異なるという見解にいたりしました。残念ながら今では、この見解に興味を示していただけことはまれですが、これについては当時癌研病院婦人科部長であった荷見先生から「再現性（誰が観ても腹水中のがん細胞集塊形態を区分することができる、ということ）の低いことは、仮に事実であっても受け入れられにくい」と指導されました。この「再現性が高くなければ世の中には受け入れてもらえない」という概念が、その後の記述式内膜細胞診報告様式などの活動で活かされました。卵巣腫瘍と細胞診については、きたるべき腹腔鏡手術の到来を予感して、手術開始の初期段階で、卵巣腫瘍の良悪性の診断を腹水細胞診、腫瘍内用液細胞診で行う可能性を検討したものでした。学会での発表後、論文にさせていただくべきでしたが、私の才能の低さゆえに公表しないまま、



埋もれていきました。子宮内膜細胞診については、自身で抱えていたさまざまな問題を、多くの方々との出会いの中で、解決していく糸口を見出しつつあるような気がしています。これらの臨床研究を通して、常に誰よりも早く、さまざまな問題の答えを自分自身が知ることができ、そのたびに細胞診に携わっている幸せを感じることができました。

私は、この「一朝一夕に身につかない」ことが好きなようです。小学生から続いている飛行機の模型作りは、自画自賛ですが段々と上達し、今ではプロ並みです。今年、私の人生の中で代表作となるはずの 1/32 F-14A TOMCAT（映画『トップガン』でトム・クルーズが乗っていた戦闘機）が完成する予定です。スイミングは、今までは距離優先で泳いでいました。2年前には、1年間で平泳ぎ（Breaststroke）単独で 500 km を泳ぎ切りました。これは、以前テレビで吉永小百合さんが過去に 400 km を 1 年で泳いだと語っておられたことに対抗心を燃やした結果でした。昨年暮れに自身のフォームを水上、水中カメラで撮影していただき、猛反省をした後、さまざまな改良と泳ぎこみを行い、その結果、多くの仲間からその上達を褒めていただき、すっかり気をよくしています。約 2 年前からプロに教えていただいているトランペット演奏は、今、大きな壁に当たってはいますが、ここを越えれば、素晴らしい未来が待っているはずです（と思わなければ、やっていられないほど、今は大スランプです）。これらはいずれも、同じような条件で始められた人に、簡単には追いつけられないという自負があります。さすがに細胞診ではそれだけの自信はございませんが、日々の鍛錬の中で変化していく自分を感じることは、私にとってはとても楽しい気分です。また、スランプに陥っても必ず乗り越えられるという自信も（単に誤解かもしれませんが）つきました。

ところで、子宮頸がん検診に HPV 検査を導入することが多くの国々で報告されています。そのようななかで 2016 年に横浜で開催された国際細胞学会では、私たちは子宮内膜細胞診という、国外ではあまり注目されていない領域のシンポジウムを担当させていただく機会に恵まれました。そのシンポジウム後に、オーストラリアから参加いただいた方から、これからの子宮内膜細胞診について自国から情報を集めてくるように言われた、として、さまざまな質問をいただきました。背景には、今後、オーストラリアで HPV 単独検診が始まり、それに伴い子宮頸部細胞診標本を判定する機会が減少すると予想されるため、活路を子宮内膜に求めている、という事情があることを教えていただきました。たしかに HPV 検査単独で子宮頸がん検診を行うとすれば、取り扱われる子宮頸部細胞診標本数は減少するかもしれません。しかし、子宮頸部細胞診の重要性は低下することはないはずであり、求められるスキルも変わらないはずです。われわれスキルをもっている専門家集団は、自身の保身に細胞診を利用することを考えるよりは、いまだに開拓されていない細胞診断学の活路を、もっと貪欲に求めるべきではないでしょうか。冒頭に申し上げましたように、細胞診断学には、まだまだできることがたくさん残されているはずです。その活路と発展を見出す手段として、本学会誌の果たす役割はきわめて大きいです。その学会誌の巻頭言として、プライベートなことも書き連ねました勝手を、お許しください。

日本臨床細胞学会雑誌投稿規定

1. 投稿資格

原則として投稿者は共著者も含め日本臨床細胞学会会員に限る。

2. 掲載論文

- 1) 論文の種別は総説, 原著, 調査報告, 症例報告, 特集, 短報, 読者の声である。
- 2) 投稿論文は臨床細胞学の進歩に寄与しうるもので, 他誌に発表されていないものに限る。
- 3) 論文作成に際しては, プライバシー保護の観点も含め, ヘルシンキ宣言 (ヒトにおける biomedical 研究に携わる医師のための勧告) ならびに臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省 (平成 15 年 7 月 30 日, 平成 16 年 12 月 28 日全部改正, 平成 20 年 7 月 31 日全部改正) が遵守されていること。

※これらの指針は, 学会誌 1 号に記載。

- 4) 論文の著作権は本学会に帰属し, 著者は当学会による電子公開を承諾するものとする。セルフ・アーカイブ (自身のホームページ, 所属機関のリポジトリなど) においては表題, 所属, 著者名, 内容抄録の公開は学会誌の発行の後に認められる。
- 5) 論文投稿に際し, 著者全員の利益相反自己申告書 (様式 2) を添付すること。なお, 書式は <http://www.jssc.or.jp/member.html> からダウンロードし用いる。この様式 2 の内容は論文末尾, 文献の直前の場所に記される。規定された利益相反状態がない場合は, 同部分に, 「筆者らは, 開示すべき利益相反状態はありません。」などの文言を入れる。

3. 投稿形式

- 1) 原則として“電子投稿”とする。
- 2) 電子投稿の際には, 以下のサイトからアクセスする。
<https://www.editorialmanager.com/jjssc/>

4. 執筆要項

1) 文章と文体

- (1) 用語は和文または英文とする。
- (2) 平仮名, 常用漢字, 現代仮名づかいを用いる。ただし, 固有名詞や一般に用いられている学術用語はそ

の限りではない。英文での投稿原稿の場合も和文の場合に準ずる。

- (3) 度量衡単位は cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg など CGS 単位を用いる。
- (4) 外国人名, 適当な和名のない薬品名, 器具および機械名, または疾患名, 学術的表現, 科学用語については原語を用いる。大文字は固有名詞およびドイツ語の名詞の頭文字に限る。
- (5) 医学用語は日本臨床細胞学会編集の「細胞診用語解説集」に準拠すること。また, その略語を用いても良いが, はじめに完全な用語を書き, 以下に略語を用いることを明らかにする。

2) 原稿の書き方 (電子投稿でない場合)

原稿はワープロを用い, A4 判縦に横書きし, 1 行 25 字で 20 行を 1 枚におさめる。上下左右に 30 mm 程度の余白をとり, 左揃えとする。文字は 12 ポイント相当以上を用いるのが望ましい。

3) 電子ファイル

以下の電子ファイル形式を推奨する。

Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (英文のみ), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

なお, 写真の解像度は, 雑誌掲載サイズで 300dpi 以上が目安である。

4) 総説・原著・調査報告・症例報告・短報論文の様式

(1) 構成

タイトルページ, 内容抄録, 索引用語 (key words), 本文, 利益相反状態の開示, 英文抄録, 文献, 写真, 図, 表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。タイトルページ (1 枚目) には, 当該論文における修正稿回数 (初回, 修正 1 など), 論文の種別 (原著, 症例報告, 短報など), 和文の表題 (50 字以内), 著者名, 所属のほか論文別刷請求先, 著作権の移譲と早期公開に対する同意を明記する。

2 枚目には内容抄録, 索引用語を記載する。本文は内容抄録とは別に始める。

(2) 著者

著者名は直接研究に携わった者のみに限定する。著者数は以下のとおりとし, それ以外の関係者は本文末に謝辞として表記されたい。

原著：10 名以内

調査報告：8 名以内

症例報告：8 名以内

短報：5 名以内

総説：1 名を原則とする

(3) 内容抄録

短報を除いて 500 字以内にまとめ、以下のような小見出しをつける。

原著と調査報告：目的、方法、成績、結論

症例報告：背景、症例、結論

総説と特集：論文の内容に応じて適宜設定

(4) 索引用語

論文の内容を暗示する英語の単語 (Key words) を 5 語以内で表示する。原則として、第 1 語は対象、第 2 語は方法、第 3 語以下は内容を暗示する単語とする。

key words 例：

胆嚢穿刺吸引細胞診—胆嚢癌 4 例の細胞像と組織像—

Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology

肝細胞癌についての 1 考察

Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review
喀痰中に卵巣明細胞腺癌細胞が見出されたまれな 1 例

Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum,
Metastasis, Case report

(5) 本文および枚数制限

a. 原著・総説・調査報告

本文、文献を含め 10,000 字以内 (A4 判 20 頁) とする。

図・表 (写真を含まず) は、10 枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

b. 症例報告

本文、文献を含め 6,000 字以内 (A4 判 12 頁以内) とする。

図・表 (写真を含まず) は、5 枚以内とする。

写真の枚数に制限はないが、必要最少限の枚数とする。

c. 短報

出来上がり 2 頁以内とする。

写真は 2 枚以内 (組み合わせは各々 2 枚以内)。

図表は計 1 枚までとする。

写真 2 枚と図表 1 枚が入った場合の本文 (I. はじめに～) と文献は 1,500 字程度 (A4 判 3 頁)

を目安とする。

(6) 英文抄録

本文とは別紙に、表題の英訳およびローマ字つづりの著者名、所属の英文名、および抄録内容を記す。著者名のあとに、以下の略号を用いてそれぞれの称号あるいは資格を付記する。

医師：M. D. M. D., M. I. A. C. M. D., F. I. A. C.

歯科医師：D. D. S. とし、それ以外の称号あるいは資格は医師と同様に付記する。

臨床検査技師：M. T., C. T., J. S. C., C. T., I. A. C., C. T., C. M. I. A. C., C. T., C. F. I. A. C.などを記載する。抄録内容は英語で 200 語以内 (ただし表題、著者名、所属名はのぞく) とし、以下のような小見出しをつけてまとめる。

原著と調査報告：Objective, Study Design, Results, Conclusion

症例報告：Background, Case (または Cases), Conclusion

総説：論文の内容に応じて適宜設定

短報：小見出しをつけずに 100 語以内にまとめる

(7) 文献

a. 主要のものに限る。

原著・特集・調査報告：30 編以内

症例報告：15 編以内

短報：5 編以内

総説：特に編数の制限を定めない

b. 引用順にならべ、本文中に肩付き番号を付す。

c. 文献表記はバンクーバー・スタイルとし、誌名略記について和文文献は医学中央雑誌刊行会、英文文献は Index Medicus に準ずる。参考として以下に例を記載する。

【雑誌の場合】

著者名 (和名はフルネームで、欧文名は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで 6 名まで表記し、6 名をこえる場合はその後を “・ほか”, “et al” と略記する)。表題 (フルタイトルを記載)。雑誌名 発行年 (西暦) : 巻 : 頁 - 頁。

【単行本の場合】

著者名。表題。発行地 : 発行所 : 発行年 (西暦)。なお、引用が単行本の一部である場合には表題の次に編者名、単行本の表題を記し、発行年。頁 - 頁。

他者の著作物の図表を論文中使用する場合は、原著者 (あるいは団体) より投稿論文を電子公開することを含めた許諾が必要で、これを証明

する書類を添付する。

(8) 図・表・写真

- a. 図, 表は英文で作成する。写真, 図, 表は Photo, 1, Fig. 1, Table 1 などのようにそれぞれの番号をつけ, 簡単な英文のタイトルと説明を付記する。
- b. 本文中には写真, 図, 表の挿入すべき位置を明示する。
- c. 顕微鏡写真には倍率を付する。顕微鏡写真(細胞像, 組織像)の倍率は撮影時の対物レンズ倍率を用いるが, 写真へのスケールの挿入が好ましい。顕微鏡写真については撮影時の倍率を表示するか, または写真にスケールを入れる。

5) 特集論文の様式

一つのテーマのもとに数編の論文(原著ないし総説)から構成される。特集企画者は, 特集全体の表題(和文および英文)および特集の趣旨(前書きに相当)を1,200字以内にまとめる。原稿の体裁は原著・総説に準じる。

6) 読者の声

以上の学術論文に該当しないもので, 本誌掲載論文に関する意見, 本学会の運営や活動に関する意見, 臨床細胞学に関する意見を掲載する。ただし, 他に発表されていないものに限る。投稿は以下の所定の書式・手順による。

- (1) 表題は和文50字以内とする。表題に相当する英文も添える。

改行して本文を記述する。

末尾に著者名(資格も付記), 所属施設名, 同住所の和文および英文を各々別行に記す。著者は1名を原則とする。文献は文末に含めることができるが, 表・写真・図を用いることはできない。これらの全てを1,000字以内(A4判2頁以内)にまとめる。

- (2) 掲載の可否は編集委員会にて決定する。なお, 投稿内容に関連して当事者ないし第三者の意見の併載が必要であると本委員会が認めた場合には, 本委員会より該当者に執筆を依頼し, 併列して編集することがある。

7) 英文投稿の場合

A4縦にダブルスペースで10頁以内とする。

和文抄録を付し, 図・表その他は和文の場合に準ずる。

5. 別 刷

別刷を希望するときは, 校正時に部数を明記して申し込む。

6. 論文の審査

投稿論文は編集委員会での審査により採否を決定し, その結果を筆頭著者に通知する。審査にあたっては査読制を

とる。原稿の組体裁, 割付は編集委員会に一任する。

7. 校 正

著者校正は原則として初校において行う。出版社から送付された校正は, 必ず3日以内に返送する。校正担当者が筆頭著者以外の時は, 校正の責任者と送り先を投稿時に明記する。校正では間違いを訂正する程度とし, 原稿にない加筆や訂正は行えない。

8. 掲 載 料

出来上がり4頁までを無料とし, 超過頁の掲載料は著者負担とする。白黒写真製版代およびカラー写真印刷代は無料とするが, その他の図版費(図の製版代), 英文校正料, 別刷代は著者負担とする。また, 邦文論文の英文校正料と別刷代については半額免除とし, 英文論文の場合は図版費を含めて掲載料を免除する。

9. 依頼原稿

依頼原稿は, 総説または原著の形式とし, 査読を必要とせず, 著者校正を行う。

依頼原稿の著者は, 日本臨床細胞学会会員に限らない。

図・表・写真に関しては, 和文での作成を許容する。また掲載料に関しては全額免除とする。

10. 本規定の改定

投稿規定は改定することがある。

(平成4年6月一部改定)	(平成23年3月一部改定)
(平成6年6月一部改定)	(平成23年8月一部改定)
(平成9年6月一部改定)	(平成24年4月一部改定)
(平成11年6月一部改定)	(平成26年5月一部改定)
(平成21年5月一部改定)	(平成26年11月一部改定)
(平成21年6月一部改定)	(平成26年12月一部改定)
(平成21年11月一部改定)	(平成27年3月一部改定)
(平成22年4月一部改定)	(平成29年1月一部改定)
(平成22年9月一部改定)	(平成29年11月一部改定)

添付1 Acta Cytologica への投稿について

投稿規定は www.karger.com/acy に明記されていますのでこれに従って下さい。従来は国内での査読を行っていましたが, 直接投稿していただくことになりました。

添付2 以下の2項目は毎年1号に掲載する。

- ・ヘルシンキ宣言
 - ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
- 平成26年12月22日

NOTICE TO CONTRIBUTORS

1. Authorial responsibility :

All authors of this journal including coauthors must be members of the Japanese Society of Clinical Cytology.

2. Categories of articles published :

1) The categories of articles published in this journal are *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports*, *special articles*, *brief notes*, and *reader's voices*.

2) The submitted articles should contribute to the advancement of clinical cytology and must be submitted exclusively to this journal.

3) Authors must observe the Declaration of Helsinki (recommendations for physicians conducting biomedical studies in humans) and the Ethics Guidelines for Clinical Research (Ministry of Health, Labour and Welfare, July 30, 2003, Revised on December 28, 2004 and July 31, 2008), including privacy protection.

* These guidelines appear in the first issue of the journal.

4) Copyright for articles published in this journal will be transferred to the Japanese Society of Clinical Cytology, and the authors must agree that the articles will be published electronically by the Society. The authors are permitted to post the title, affiliations, authors' names and the abstract of their article on a personal website or an institutional repository, after publication.

5) All authors will be required to complete a conflict of interest disclosure form as part of the initial manuscript submission process. The corresponding author is responsible for obtaining completed forms from all authors of the manuscript. The form can be downloaded from (<http://www.jsccl.or.jp/member.html>) The statement has to be listed at the end of the text.

3. Submission style :

1) As a general rule, manuscripts should be submitted electronically.

2) For initial submission, please access the site below.
(<https://www.editorialmanager.com/jjcc/>)

4. Instructions for manuscripts :

1) Text and writing style

- (1) Manuscript is to be written in Japanese or English.
- (2) Hiragana, daily use kanji and contemporary Japanese syllabic writing should be used, except for proper nouns and generally used technical terms. English manuscripts should be prepared essentially in the same manner as Japanese manuscripts.
- (3) Weights and measures are expressed in CGS units (cm, mm, μm , cm^2 , ml, l, g, mg, etc.).
- (4) Names of non-Japanese individuals, drugs, instruments / machines, or diseases that have no proper Japanese terms, academic expressions and scientific terms are to be written in the original language. Upper case letters should be used only for proper nouns and the first letter of German nouns.
- (5) Medical terms should be in accordance with the "Saibou-shinn yougo kaisetsu-syu (Handbook of cytological terminology)" edited by the Japanese Society of Clinical Cytology. Abbreviations of medical terms may be used, but the terms should be spelled out in full at their first occurrence in the text and the use of abbreviations is to be mentioned.

2) Manuscript preparation

Manuscripts are to be prepared using a word processor on vertical A4-size paper, with 25 characters per line and 20 lines per page. The top, bottom and side margins should be approximately 30 mm, and paragraphs left-justified. Twelve point or larger font size is preferable.

3) Electronic files

The following electronic file formats are recommended. Word, WordPerfect, RTF, TXT, LaTeX2e (English only), AMSTeX, TIFF, GIF, JPEG, EPS, Postscript, PICT, PDF, Excel, PowerPoint.

A minimum resolution of 300 dpi size is required for photographs for publication.

4) Style of *review articles*, *original articles*, *investigation reports*, *case reports* and *brief notes*.

- (1) Manuscript format

The parts of the manuscript are to be presented in the following order : Title page, abstract, key words, text, conflict of interest disclosure, English abstract, references, photographs, figures and tables. The pages of the manuscript should be numbered consecutively. The number of revisions (initial submission, first revision, etc.), the category of paper (*original article, case report, brief note, etc.*), Japanese title (not exceeding 50 characters), name (s) of author (s), authors' affiliations, address for reprint requests, and agreement of copyright transfer and early publication must be clearly written on the title page (the first page).

The abstract and key words are to be written on the second page. There should be a separation between the abstract and the start of the text.

(2) Authors

Authors will be limited to persons directly involved in the research. The number of authors is to be as follows, and other persons involved should be mentioned in the *Acknowledgments* section at the end of the paper.

Original articles : no more than 10

Investigation reports : no more than 8

Case reports : no more than 8

Brief notes : no more than 5

Review articles : just one author, as a general rule

(3) Abstract

The text of the abstract should not exceed 500 characters, except for *brief notes*, and the headings should be comprised of the following.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles and *special articles* : headings are to be selected according to content.

(4) Key words

No more than 5 key words indicative of the content of the paper are to be supplied. As a general rule, the first term usually indicates the subject, the second term, the method, the third term and beyond, the content.

[Titles followed by examples of appropriate key words in parentheses]

Examples of Key words :

– Gallbladder aspiration cytology — Cytological and histological findings in four cases of gallbladder cancer — (Gallbladder, Aspiration, Cancer, Morphology)

– A review of hepatocellular carcinoma (Hepatocellular carcinoma, Morphology, Review)

– A rare case of ovarian clear cell adenocarcinoma cells detected in sputum (Clear cell adenocarcinoma, Cytology, Sputum, Metastasis, Case report)

(5) Text and page limitations

a. *Original articles, review articles, and investigation reports* :

The manuscript should not exceed 10,000 characters (20 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 10 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

b. *Case reports* :

The manuscript should not exceed 6,000 characters (12 pages of A4 size), including text and references.

Figures and tables (exclusive of photographs) should not exceed 5 pages. There are no restrictions on the number of photographs, but the minimum necessary should be submitted.

c. *Brief notes* :

A brief note should not exceed two printed pages.

No more than two photographs (or combinations of no more than two photographs) and one figure or table can be included.

If two pictures and one figure or table are included, text (I. Introduction ...) and references should be approximately 1,500 characters (3 pages of A4 size).

(6) English abstract

An English translation of the title, authors' names in Roman letters, authors' affiliations in English, and English abstract should be given on a page separate from the text. The authors' degrees/qualifications are to be written after their names using the following abbreviations.

For physicians : MD ; MD, MIAC ; MD, FIAC.

For dentists : DDS, with other degrees or qualifications abbreviated the same as for physicians.

For clinical laboratory technologists : MT ; CT ; JSC ; CT, IAC ; CT, CMIAC ; CT, CFIAC.

The text of the abstract should not exceed 200 words (exclusive of the title, authors' names and affiliations), and the following headings are to be used.

Original articles and *Investigation reports* : Objective, Study Design, Results, Conclusion

Case reports : Background, Case (s), Conclusion

Review articles : headings should be selected according to their content.

Brief notes : abstracts for brief notes should consist of no more than 100 words and no headings are to be used.

(7) References

- a. Only major references are to be listed.

Original articles, special articles, and investigation reports : no more than 30 titles

Case reports : no more than 15 titles

Brief notes : no more than 5 titles

Review articles : no limit

- b. References are to be listed in the order in which they appear in the text, and indicated by superscript numbers in the text.
- c. The references should be listed in the Vancouver style, and the journal abbreviations in Japanese and English references according to the Japan Medical Abstracts Society and Index Medicus, respectively. Examples are shown below.

For journals :

Name (s) of the author (s) (full names for Japanese names ; for European names, surnames of the first 6 authors spelled out, with initials for the rest of the name, and other authors' names abbreviated "*et al*"). Title (full title should be given). Name of the journal (space) Year of publication ; Volume : Page numbers.

For books :

Name (s) of the author (s). Title. Place of publication : Name of the publisher ; Year of

publication (If a citation is just one part of an independent book, the title should be followed by the name of the editor, the title of the book, and the year of publication). Page numbers.

If figures and tables from another author's work are used in the article, permission for publication, including electronic publication, must be obtained from the original author (or organization), and the documents certifying this permission must be attached.

(8) Figures, tables and photographs

- a. Figure and table titles are to be written in English. Photographs, figures and tables are to be numbered thus : Photo. 1, Fig. 1, Table 1, etc. Provide simple titles and explanations in English.
- b. Clearly state where the photographs, figures and tables should be positioned in the text.
- c. Magnifications are to be stated for micrographs. The magnification of the objective lens at the time the photograph was taken will be used as the magnification for photomicrographs (photographs of cells or tissues). Authors are recommended to use scale bars in the photograph. For electron micrographs, the magnification at which the photograph was taken should be stated or scales included in the photograph.

5) Style of special articles

Special articles are composed of several papers (*original articles* or *reviews*) on a single topic. The planners of *special articles* need to prepare the title of the whole special issue (in Japanese and English) and a synopsis (equivalent to an introduction) of no more than 1,200 characters. The style of *special articles* should be the same as for *original articles* and *review articles*.

6) Reader's voices

Submissions which do not fit the above-described categories for scientific papers, including opinions on papers already published in the journal, the operation and activities of the Japanese Society and Clinical Cytology, are also published, but only if they have not been presented elsewhere. Submissions should be in accordance with the following prescribed form and procedure.

- (1) The title is not to exceed 50 characters, and a corre-

sponding English title should be provided.

The text should be started on a new line.

At the end of the text, the name (s) of author (s) (with the authors' qualifications), institutional affiliations and addresses should be written in Japanese and English on separate lines. As a general rule, there should be just one author. References can be added at the end, but no tables, pictures and figures. All of the above should be no more than 1,000 characters (no more than 2 pages of A4 size).

- (2) The editorial board will decide whether a submission will be published. If the Committee finds it necessary to also publish the opinion of a person referred to in the manuscript or a third party in regard to the content of the paper submitted, the Committee will request that the person concerned write it, and the two will be published together.

7) English manuscripts

English manuscripts are to be written double-spaced on A4 paper, and should not exceed 10 pages.

A Japanese abstract should be provided, and figures, tables, etc. are to be prepared in the same manner as the Japanese manuscript.

5. Reprints :

When reprints are desired, the author should state the number of copies to be ordered when returning the first galley proof.

6. Review of the manuscript :

Whether a manuscript submitted for publication will be accepted is determined by a review conducted by the editorial board, and the first author will be notified of the results. The referee system is used to conduct these reviews. The editorial board will be responsible for the layout and format used in printing the manuscript.

7. Proofreading :

The publisher will send the first galley proof to the first author, who should check and return it within three days. When the person responsible for proofreading is someone other than the first author, the person's name and address must be clearly stated when the manuscript is submitted.

Only errors can be corrected on proofs. Nothing that is not already in the manuscript can be added or corrected.

8. Publishing fee :

Authors will be charged for space in excess of 4 printed pages. There will be no charge for the cost of printing black-and-white and color photographs. However, authors will be charged for plate making for figures other than photographs, English proofreading and reprints. In addition, half the charges for English proofreading and reprints of Japanese articles will be waived, and the publishing fees, including plate making charges, for English articles will be waived.

9. Revision of these rules :

The rules for submitting manuscripts may change.

(Partial revision June 1992)

(Partial revision June 1994)

(Partial revision June 1997)

(Partial revision June 1999)

(Partial revision June 2009)

(Partial revision November 2009)

(Partial revision April 2010)

(Partial revision September 2010)

(Partial revision March 2011)

(Partial revision April 2012)

(Partial revision May 2014)

(Partial revision November 2014)

(Partial revision December 2014)

(Partial revision March 2015)

(Partial revision January 2017)

Appendix 1. Submission of manuscripts to *Acta Cytologica*

Please go the new *Acta Cytologica* website ([www.karger.com / acy](http://www.karger.com/acy)) and read guidelines for manuscript submission. Submission of manuscripts to the Japanese Editorial Office for preparatory review has been abolished.

Appendix 2. The following 2 items will appear in the first issue of every year.

- Declaration of Helsinki
- Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects
March, 2015

日本臨床細胞学会編集委員会 (平成 29 年～30 年)

委員長: 竹島信宏

担当理事: 井上健

委員: 伊藤以知郎
富永英一郎

幹事: 岡田真也

査読委員: 相島慎一

阿部英二

有廣光司

池田聡

石谷健

伊東恭子

今野元博

岩田卓

白田実男

梅澤敬

遠藤浩之

大金直樹

太田善夫

大森真紀子

岡本吉明

小野瀬亮

柿沼廣邦

梶原直央

加藤一喜

金尾祐之

鴨井青龍

河原明彦

紀川純三

北澤莊平

京哲

久山佳代

小島淳美

小林佑介

近内勝幸

佐川元保

佐藤慎也

塩澤哲

島田宗昭

白波瀬浩幸

杉山裕子

進伸幸

三上芳喜

岡本三四郎

古田則行

河内茂人

青木裕志

安倍秀幸

有馬良一

池田純一郎

出馬晋二

伊藤雅文

今村好章

上田善彦

内田克典

浦野誠

小穴良保

大亀真一

大塚重則

緒方衝

小倉豪

尾松公平

垣花昌俊

梶原博

加藤拓

金山清二

川越俊典

河原栄

菊池朗

北澤理子

清川貴子

黒川哲司

小島勝

小林陽一

齊尾征直

桜井孝規

佐藤誠也

品川明子

清水和彦

白山裕子

鈴木淳

関田信之

九島巳樹

星利良

谷川輝美

明石京子

阿部仁

飯田哲士

池本理恵

磯西成治

稲田健一

井村穰二

上原剛

内田好明

卜部省悟

及川洋恵

大久保文彦

大野喜作

岡輝明

小椋聖子

小山田裕行

郭翔志

加勢宏明

加藤智美

金子千之

川崎朋範

河原邦光

木佐貫篤

北村隆司

草苅宏有

黒住昌史

小塚祐司

小宮山慎一

齋藤生朗

笹川寿之

佐藤美紀子

澁木康雄

清水道生

菅井有

鈴木直

関根浄治

清水健

的田真紀

明瀬光里

荒木邦夫

伊倉義弘

石井真美

井谷嘉男

井野元智恵

伊豫田明

宇佐美知香

宇津木久仁子

卜部理恵

大井章史

大崎博之

大林千穂

岡俊郎

尾崎聡

小山徹也

覚野綾子

片岡竜貴

加藤利奈

鹿股直樹

川瀬里衣子

河村憲一

岸野万伸

木下勇一

串田吉生

黒瀬圭輔

小西登

小山芳徳

坂谷貴司

佐々木素子

郷久晴朗

渋谷秀美

清水禎彦

杉島節夫

鈴木雅子

園田顕三

芹澤昭彦

矢納研二

秋葉純

有泉泰

池田仁恵

石岡伸一

市原周

今井裕

岩井幸子

碓井宏和

馬屋原健司

江口正信

大石徹郎

大崎能伸

大原樹

岡部義信

尾崎敬

甲斐敬太

笠井孝彦

片山博徳

門田球一

神尾多喜浩

河野光一郎

川村直樹

鬼島宏

木村文一

工藤明子

黒田一

小林裕明

近藤英司

坂本優

笹秀典

澤崎隆

渋谷潔

下釜達朗

杉谷雅彦

鈴木正人

駄阿勉

寺井義人

阿部彰子

有田茂実

池田桂子

石川雄一

市村友季

今井律子

岩崎雅宏

薄田勝男

梅澤聡

蝦名康彦

大井恭代

大谷博

大平達夫

岡本聡

小田義直

利部正裕

笠松高弘

香月奈穂美

加戸伸明

神山晴美

河野裕夫

神田浩明

岸本浩次

喜友名正也

久布白兼行

黒田誠

小林博久

近藤哲夫

嵯峨泰

佐治晴哉

澤田達男

渋谷信介

下条久志

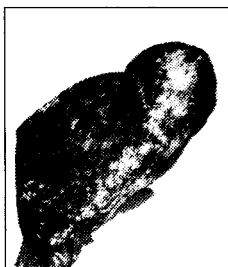
杉山徹

鈴木美和

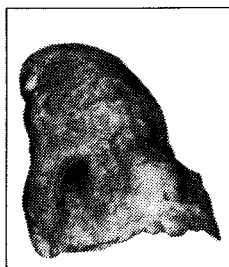
多比良朋希

高倉 聡	高田 恭臣	高野 忠夫	高橋 顕雅	高橋 恵美子	高橋 円
高橋 芳久	高松 潔	田口 健一	田口 雅子	武井 英博	竹井 裕二
竹下 盛重	武田 麻衣子	武田 玲郁	竹原 和宏	田尻 琢磨	田勢 亨
橘 啓盛	楯 真一	田中 一朗	田中 耕平	田中 尚武	田中 浩彦
田中 綾一	田中 良太	棚田 諭	田沼 順一	田畑 務	玉田 裕
田村 浩一	千 酌 潤	塚田 ひとみ	塚本 徹哉	辻 浩介	都島 由紀雄
津田 浩史	土田 秀	筒井 英光	角田 肇	寺戸 信芳	寺畑 信太郎
寺本 典弘	寺本 瑞絵	土居 正知	田路 英作	徳田 雄治	渡具 知 克
徳永 英樹	戸澤 晃子	富田 裕彦	豊島 将文	豊田 進司	鳥居 貴代
内藤 嘉紀	中泉 明彦	中尾 佳史	長坂 徹郎	中里 宜正	中澤 久美子
長嶋 健也	永瀬 智	中山 行雄	中塚 伸一	中村 栄男	仲村 勝
中村 力也	中山 淳	中山 富雄	中山 宏文	南部 雅美	新倉 仁
西尾 浩	西ヶ谷 順子	西川 鑑一	錦見 恭子	西野 幸治	西村 由香里
西村 理恵子	西森 誠	西山 憲一	布引 治	野田 裕	能登 原憲司
野中 道子	野村 秀高	野村 弘行	野本 靖史	則松 良明	羽賀 博典
端 晶彦	橋口 真理子	長谷川 清志	長谷川 哲哉	畠 榮	畑中 一仁
秦 美暢	蜂須賀 徹	服部 学	羽鳥 努	羽原 利幸	濱川 真治
林 茂徳	林 俊哲	原田 憲一	坂東 健次	阪埜 浩司	東田 太郎
東 美智代	樋口 佳代子	姫路 香里	平沢 晃	平田 哲士	平林 健一
廣井 禎之	廣川 満良	廣島 健三	廣田 誠一	福島 裕子	福島 万奈
福留 伸幸	福屋 美奈子	藤井 丈士	藤田 茂樹	藤田 勝	伏見 博彰
藤山 淳三	藤原 潔彦	藤原 寛行	二神 真行	古田 玲子	古旗 淳
干川 晶弘	星田 健太	増田 し のぶ	堀 由美子	本間 慶一	前田 純一
前田 祐介	増岡 和子	松下 宏隆	町田 知久	松井 成明	松浦 基樹
松浦 光司	松本 慎二	松元 隆之	松田 陽子	松永 淳子	松林 純世
松本 喜明	三浦 弘守	三浦 弘之	丸川 活司	丸田 淳子	丸山 康博
三橋 暁	皆川 幸久	湊 宏	三上 幹男	水野 美香	三田 明弘
宮井 由美	宮城 悦子	宮城 淳也	南口 早智子	南 優子	三村 明弘
宮本 朋幸	棟方 哲行	村田 哲也	三宅 真司	三宅 康之	宮嶋 葉子
森定 徹	森澤 宏実	森下 明博	望月 紀英	元井 康浩	元木 葉子
安岡 弘直	安田 政亘	矢田 直彦	森下 由紀雄	柳井 広之	森村 豊
矢野 博久	山上 恭輔	山口 隆司	谷田 部 恭	山崎 龍王	矢野 恵子
山田 壮亮	山田 元英	山田 隆治	山口 隆明	山田 鉄也	山下 博幸
山本 晃人	山元 良仁	横井 豊治	山田 英明	横瀬 智之	山田 範幸
山横 山宗伯	横山 野 潔	吉岡 治彦	横尾 明彦	吉田 浩一	横山 勤
吉田 朋美	吉野 清忠	吉見 直己	吉澤 明彦	米山 剛一	梁 善光
若 狭 朋子	鷺谷 清忠	和田 直樹	米田 邊 純	渡辺 寿美子	渡部 洋

(50音順)

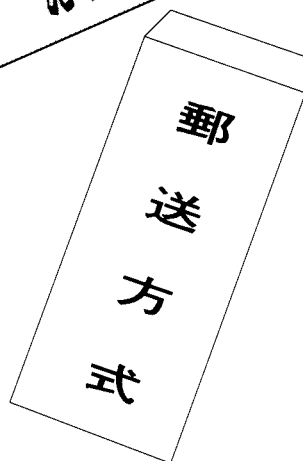


左側：長期間喫煙者の肺



右側：非喫煙者の肺

肺がん予防・早期発見のために たんのけんさ 喀痰細胞診のすすめ



【特 長】

- 1 簡便な「ポスト投函」による郵送で、高い受診回収率が期待できます。
- 2 携帯便利な「ボックス型」で、「何時」でも「何処」でも「採痰」が可能です。
- 3 採痰後、「迅速かつ効率的」な「直接塗抹法」で高い処理能力を有し、検診に適しています。
- 4 保存液は、「細胞の形態保存」「染色性」に十分な配慮がされています。
- 5 検鏡下で、「生痰と同様な所見」が得られ、検索が容易です。
- 6 蓄痰法で、特に肺門部癌の「陽性率80%」以上の検出率です。

本品は、東京医科大学早田 義博名誉教授、加藤 治文名誉教授のご指導で作製しました。50%エタノール、2%カーボックス、0.5%チモール、生食水を保存液とした「郵送方式を特長」とし、肺がんの早期発見を目的とした喀痰細胞診専用容器です。

※容器発注及び受検方法などの詳細は、
下記へお問い合わせ下さい。

製造発売元



メディカル ケア センター

〒340-0017 埼玉県草加市吉町5丁目11番8号 ☎048-927-3628

推 薦 東京医科大学外科学教室

